

ぐんま幼児教育センターだより

今年度も、群馬県総合教育センター幼児教育センターの事業に対する御理解・御協力をいただき、ありがとうございました。
今年度を締めくくると第54号、ぜひ最後までお読みください！

P.2

- 令和7年度研修講座 実施報告
- 令和8年度の研修について

P.3

- タヤケ保育研修会実施報告
- 保育アドバイザー実施報告

P.4
~7

- 令和7年度研究報告
(係・長期研修員の研究)

P.8

- 令和7年度研究報告
(特別研修員の研究)

54号の内容です！
研修から研究まで
盛りだくさんでお届
けします！

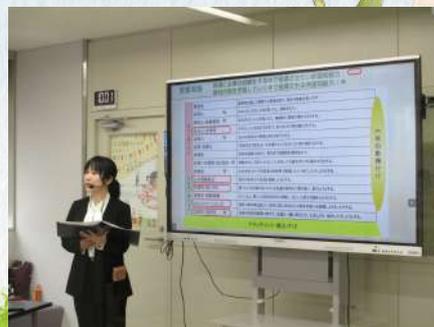


ぼんぼこせん長

ぐんま教育フェスタ開催報告

令和8年2月7日に総合教育センターにおいて、ぐんま教育フェスタが開催されました。幼児教育施設や小学校の先生方、教育委員会等からたくさんの方々が幼児教育センターの発表を聞きに来てくださいました。休日にも関わらずご来場くださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

大塚研修員は、4月から「幼児期の育ちを生かす小学校第1学年における環境の構成の工夫」を主題として研究を進めてきました。4ページから、令和7年度の研究について詳しく掲載しています。ぜひご覧ください。



お問い合わせ

総合教育センター
幼児教育センター



0270-26-9203



youji@edu-g.gsn.ed.jp



令和7年度研修講座実施報告

今年度の各研修講座も、皆様のご協力のおかげで円滑に運営することができました。ありがとうございました。研修後のアンケートから、受講者の先生方が学びを深めている様子を知ることができ、大変嬉しく思います。今後は、いただいたアンケートのご意見を来年度以降の研修講座の計画・運営に生かしていきたいと思っております。研修に集中できる環境をご用意くださった園長先生をはじめ園の先生方、関係機関の方々、ありがとうございました。

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	9日	集合研修：5日 オンライン研修：4日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	集合研修：1日 オンライン研修：1日
1410	幼稚園等5年経験者研修	2日	オンライン研修：2日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	9日	集合研修：4日 オンライン研修：4日 選択型研修：1日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育と小学校をつなぐ研修講座 (夕やけ保育研修会との合同開催3日)	4日	集合研修：2日 オンライン研修：2日

令和8年度の研修について

令和8年度の研修は、今年度のアンケートの記述を参考に、集合研修を増やしました。また、希望研修に関しては、誰でも参加しやすいようオンラインでの講義を増やしています。令和8年度も素晴らしい講師の先生方による講義を計画中です。ぜひご参加ください！

※来年度の変更点は赤字で表記

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	9日	集合研修：5日 オンライン研修：4日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	集合研修：2日
1410	幼稚園等5年経験者研修	2日	集合研修：1日 オンライン研修：1日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	9日	集合研修：5日 オンライン研修：3日 選択型研修：1日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育と小学校をつなぐ研修講座 (夕やけ保育研修会との合同開催3日)	4日	集合研修：1日 オンライン研修：3日

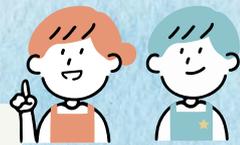
夕やけ保育研修会実施報告

今年度の夕やけ保育研修会は、オンラインで5回、集合で1回、計6回の研修を行いました。保育caféくっちゃべり亭では、講師を立てずに参加者の先生方でテーマについて自由に語り合いました。また、「幼児教育と小学校をつなぐ研修講座」と同時開催した3回の研修では、たくさんの先生方に参加していただき、様々な校種、立場の先生が共に学びました。

9月3日 保育カフェ みんなで語ろう（幼保こ小連携・接続）

公園で偶然会って対等な関係を築くというのが新しい発見で興味深かったです。

普段の様子を發揮できるような環境を構成して、交流ができればいいなと思いました。



8月19日 架け橋期の教育の具現～育ちと学びをつなぐ～ 講師：嶋野道弘先生

具体的な事例を交えてのお話が、分かりやすくあっという間の2時間でした。子供は本来学びに向かう力を持っているという言葉に改めて共感し、子供の学びを深く見取っていきたいと思いました。

11月14日 学校・園における子育ての支援と課題 講師：前田由美子先生

改めて今の社会の難しさを感じました。その中でどのように保護者に寄り添っていくかも、とても参考になりました。私自身もつぶれることなく頑張っていきたいと思います。

12月25日 幼児期・小学校低学年におけるインクルーシブ教育 講師：田中謙先生

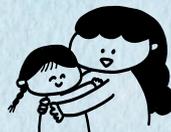
気になる子への配慮とともに集団での成長を支える視点を忘れないことについて改めて考えさせられました。本来のインクルーシブの意味を考える有意義な研修となりました。

保育アドバイザー実施報告

幼児教育センターでは、幼児期の教育や家庭教育の充実を目指し、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、公民館等で行う講演会や研修会、保護者会に、保育や教育の専門家である「保育アドバイザー」を派遣しています。今年度は**125件**のアドバイザー派遣を行いました(R8年2月現在)！受講された方からの感想を掲載します。幼保こ小連携・接続に向けた保育アドバイザー事業については次ページにより詳しく記載しています。

『今子育てに大切なこと～子供との関わり方～』

対象：幼児教育施設職員・保護者



今しかできない子育ての中で、関わり方で親も子も笑顔になるアドバイスを、事例を交えてお話くださいました。「自分が好き」という自己肯定感を育むことが大切であること、今、子供の話を十分に聞いたり、一緒に生活の中で心を傾けたりして遊ぶことが心の栄養になることなど、具体的にお話くださいました。保護者は頷いたり真剣なまなざしで聞いていたり、涙ぐんでいる方もいたりして、とても共感していました。

『子供の発達と手遊び、各年齢に出会いたい本の紹介等』

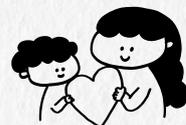
対象：幼児教育施設職員・保護者



先生のお話が分かりやすく、納得のいく内容ばかりで1時間あっという間でした。子育てに関してもっといろいろな話を聞きたく、ぜひまた先生のお話を聞ける機会があれば参加したいです。遊びを支えるために、睡眠と食事が大切であること、特別なことではなく本当にシンプルなことだと思います。その大切さについて、改めて納得のいく形で学ぶことができました。

『気になる子との関わりについて』

対象：子育て支援関係者



その子らしい人間になっていくことを支える、とても難しいけれど楽しくできるといいなと思います。子供を、○か×かで判断してしまわないように支援していきたいと思います。障害のあるないに関係なく心を開くこと、信頼をつむぐことが大切だと思いました。先生の話し方が穏やかで優しいのでより理解できた気がしました。

始めよう！

「ぐんま架け橋プログラム」

架け橋プログラムって、
どうやって進めたら
いいんだろう？

園と小学校で、
やり方を合わせなければ
いけないの？

多くの園（小学校）が
あって、どこと連携したら
いいのか分からない



そんな悩みに
お答えします！

今年度の幼児教育センターは、各地域で架け橋プログラムを推進していく方法について研究をしてみました。幼児教育と小学校教育をつなぐ上で大切な考え方、小学校における授業実践、行政のリーダーシップによって連携・接続を進める枠組みの提案など、役立つ情報が満載です！



非認知能力がカギになる！ 園ごとの違いや、園と小学校との 違いを乗り越える方法とは？

これまでの小学校への適応を目指す連携・接続では施設ごとの違いや特色があることが、小学校における管理的な指導につながっていた場合もある。

進学先の小学校ごとにやり方が違うか、どこに合わせたらいいか分からない・・・

幼



違いや特色が円滑な接続を阻害？



園ごとに特色があって、子供たちの実態が多様すぎるから入学時に統一したい・・・

小

教育活動や指導方針が各学校園で異なるのは当然であるが、幼児教育施設における「修了時の姿」を、子供たちが発揮・伸長してきた「非認知能力」に着目して分析すると、多くの共通点が見られた【次ページ図2】。さらに、先述の【表1】に示されている非認知能力は、各園の「修了時の姿」の中に網羅されていた。これらのことから、子供たちが発揮・伸長してきた「非認知能力」に着目することで、施設ごとの違いや特色を生かし、円滑な連携・接続につなげることができると考えた。

教育活動や指導方針は異なっても育みたい子供の姿は共通している
これが違いを乗り越えるための突破口となる

A園「修了時の姿」(抜粋)	B園「修了時の姿」(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ドッジボールやサッカーなどは、ルールを自分たちで考えたり、場を工夫したりして進めていく。友達同士で始めた遊びだからこそ、途中で抜けない、ずるいことには異議を言うなどの姿も見られるようになる。多くの幼児が、ボール吸いを小さい子に教える優しい面も発揮するようになる。 ◆こま回しやなわとびをするときに、自分なりのめあてをもって取り組むようになる。できるまで頑張ろうとしたり、友達の姿に刺激を受けて挑戦しようとしていたりする。友達同士で励まし合ったり、喜び合ったり、コツを伝え合ったりするようになる。 ◆当番活動については、友達同士で声を掛け合って責任感をもって取り組むようになる。下学年の台拭きやエプロンの回収にも、意欲的に取り組む。 ◆小学校への期待感とともに、登下校の信号の判断や環境の変化に対する不安感を抱く幼児も見られるが、友達や周りの人に支えられて自信をもって行動するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分なりの目的や課題に取り組み、考えたり、工夫したり、挑戦したりする気持ちをもって、できるだけ頑張ったり、思いが実現するように友達と工夫したり教え合ったりするようになる。 ◆今まで遊んでいた友達以外の幼児との交流が増し、一緒に遊ぶ中で、自分の気持ちや考えをはっきりと伝えようとするようになる。 ◆友達の考えや動きを受け入れ、友達のをよさを認め、相談しながら試行錯誤して遊ぶ幼児が増えてくる。 ◆生活する中で、今どうしたらいいのかを、友達の様子を見たり、友達や先生に聞いたり、自分で考えたりしながら、主体的に行動する幼児が多くなっていく。 ◆修了の喜びと寂しさ、小学校入学への期待と不安など多様な感情に揺れながらも、周りの人に支えられながら、自信をもって行動するようになる。

探求心・挑戦意欲 自立心・主体性 協調性・協働性
共通して発揮されている非認知能力

【図2】「非認知能力」に着目した「修了時の姿」の共通点

園を修了するときの子供たちの姿から 園で発揮されている非認知能力の 共通点が見えてくる！

子供に内在する非認知能力を 発揮させるための 「環境の構成」と 「方法としての教師」とは！？

「環境の構成」とは

「環境の構成」とは、単に教材を配置すればよいというものではない。
「人・もの・こと」としては教師や友達と関われる物的・空間的環境や、十分な時間、雰囲気などを環境として捉える。また、「教師の意図」としては環境にねらいや内容を含ませ、子供が環境に主体的に関われるよう、興味・関心を引き起こすようにすること、また、環境に関わって遊ぶ中で、成長に必要な経験が得られることが重要である。
このような環境の構成によって、子供の感受性や好奇心・探求心を刺激し、興味や関心を広げ、問題を見いだしたり解決したりできる状況を作り出すことができる。

教師の意図	人・もの・こと
ねらいや内容を含ませる	教師や友達との関わり
子供の興味・関心を引き起こす	物的・空間的環境
成長に必要な経験が得られる	十分な時間や楽しめる雰囲気
豊かな感受性	問題を見いだしたり解決したりする
好奇心や探求心	興味や関心の広がり

状況をつくりだす
営み

【図3】環境の構成
参考資料：森上友樹 幼女堂峰（編）、(2010)、実用用図鑑集、第6巻、2ネルヴン書房、中央教育審議会、(2023)、実行版プログラム実務の手引き（初版）。

「方法としての教師」とは

環境の構成においては、教師も環境の一部であるという認識が重要である。中村(2015)は、これを「方法としての教師」という言葉で表現している。
子供がしていることが、その子にとってどのような意味があるのかを理解し、同じ目線に立って共感、共鳴すること、子供一人一人の状況に即して、必要の人に、必要などきに、必要な援助を行うこと、時には教師自ら環境に関わることで、学ぶ姿や関わる姿のモデルとなること、そして、このような関わりをすることによって子供が精神的に安定するためのよりどころとなることが教師には求められる。
「方法としての教師」を意識して子供たちと関わることで、子供たちが非認知能力を安心して発揮できる状況を作り出すことができると考えた。

子供の活動の意味を理解する	子供の目線に立つ
学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる	方法としての教師
子供が精神的に安定するためのよりどころ	思いに共感し共鳴する
	必要な人に対して必要などきに必要の援助を行う

【図4】方法としての教師
参考資料：中村(2015)、幼稚園児の運動発達と促す遊びと教師の役割。

「発達に基づいた環境の構成モデル」を使ってみたら・・・

3. 小学校における「発達に基づいた環境の構成モデル」の活用

各幼児教育施設と小学校の教育活動を通して幼児が発揮している非認知能力が共通しているということは、その視点で考えれば小学校側のカリキュラムも無理なく作成できる可能性がある。

昨年度作成した「発達に基づいた環境の構成モデル」は、子供の発達の様相によって1年間を5期に分け、それぞれの期で非認知能力を発揮している子供の姿を、小学校における観察を基に記述した。そして、そのような姿を安心して発揮できるような環境の構成の在り方や教師の関わり方（方法としての教師）を示した。また、各期の具体的な子供の姿を示した資料として、事例集「きらり」を発表した。

今年度、「発達に基づいた環境の構成モデル」を活用した小学校からは、以下のような感想が寄せられた。

「発達に基づいた環境の構成モデル」を活用した小学校の感想

- 発達の様相が的確に捉えられている。
- 時期に適した指導がイメージしやすい。
- 発達の姿や環境の構成が具体的。
- 担任としての心構えを系統立てて確認することができている。
- 今まで経験則として行っていたことが具体的に示されている。
- 発達に応じた支援をより意識的に行うことができる。

「発達に基づいた環境の構成モデル」を活用することで児童の発達に応じた関わりが可能となる。
→非認知能力の発揮につながる

非認知能力を発揮して学ぶ授業づくりの方法は？

4. 非認知能力の発揮・伸長を促す授業の構想

子供たちが幼児期の教育を通して発揮してきた非認知能力は、各教科における主体的・対話的で深い学びを実現する上で不可欠な要素となる。

しかし、子供たちがどんな状況が無ければ、非認知能力が発揮されることは困難である。

そこで、児童の実態を基に、学習や生活の中で発揮されているまたは発揮されつつある非認知能力や、発揮させたい非認知能力を見だし、そこから児童の発達に必要な経験を考え、そのような経験を自ら得られるような授業を構想していくことが重要である。

その際、新たな単元を一から作り上げることは大きな労力を要するため、幼児教育センターでは既存の各教科の指導計画の中から、児童の発達に必要な経験が得られる単元・題材を見付け、環境の構成を工夫することで、子供たちが非認知能力を発揮しながら学ぶ授業を構想し、実践の細部については長期研修員の報告書に記載する。

児童の実態を捉える

- 発揮されている(されつつある)非認知能力を発揮してほしい非認知能力を見出す
- 児童の発達に必要な経験を考える
- 児童自ら必要な経験を得られる教科・単元を選定し、環境の構成を工夫する
- 授業実践を行い、子供の姿を基に授業を評価する

【図5】授業構想の手順

作ったカリキュラム どうしたらいいの？

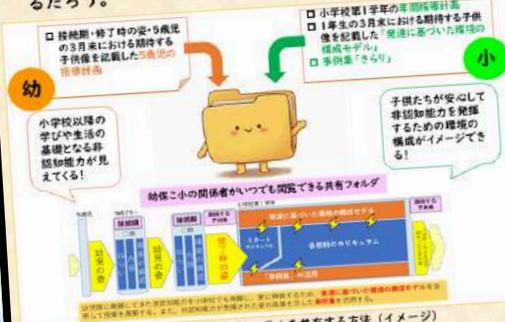
5. 作成したカリキュラムを共有する方法

幼児教育施設と小学校のカリキュラムを作成後、どのように共有していくかも課題となっている。そこで、クラウドストレージを活用し、関係者がいつでも閲覧できる共有フォルダを作る方法を提案したい。

幼児教育施設は、接続期・修了時の姿などを明記した5歳児の指導計画を架け橋期のカリキュラムとして保存する。

小学校側は、第1学年の各教科の指導計画と、今回提案している「発達に基づいた環境の構成モデル」を本校の実態に即して修正したもの、事例集「きらり」などを保存する。

必要に応じて交流活動の実施計画や年間行事予定のほか、いわゆるアプローチカリキュラムやスタートカリキュラム等を保存しておくこと更に活用しやすいものになるだろう。



6. 幼保こ小のグループ分けとカリキュラムの見直しに向けた行政側の取組

ここまで述べてきたように、架け橋プログラムは各幼児教育施設や小学校の教育活動の統一を目指すものではない。

様々な幼児教育施設と小学校の教育活動を通して育まれた資質・能力、つまり非認知能力を伝え合うことで、互いの教育の目的を理解し合うことが重要である。その中で、幼保こ小の教職員が「環境の構成」という視点から互いの教育に対する理解を深め、新たな教育実践を共に創り出していくことが求められている。そこで、まずは小学校側など、近い施設同士でグループを作り、連携・接続を図ることが効果的である。ただし、グループを越えて連携・接続することを妨げるものではないことに留意する必要がある。むしろ積極的に越境することには、知見を広げることが可能になる。

なぜなら、県内の幼児教育施設の大半は保育所や私立の園など、教育委員会の管轄外の施設だからである。各教育委員会のリーダーシップの元、まずは会議や研究会のノウハウを持っている公立の小学校を中心として、公立幼稚園等、公立保育所、私立幼稚園等へと連携を広げていくことが現実的な解決となることが全国的な実践からも明らかになっている。

- 各幼児教育施設や小学校の教育活動の統一を目指すものではない。
- 幼児期の教育で発揮されていた非認知能力を理解する。
- 幼児教育と小学校教育の教育方法を「環境の構成」の視点から見直し、新たな教育実践を創り出す。
- まずは近い園と小学校(小学校区)での交流から始めたい。
→そのためには、行政も壁を越えることが必要。

今、求められる行政のリーダーシップ

令和7年度研究報告（長期研修員）

幼児期の育ちを生かす小学校第1学年における環境の構成の工夫
—「発達に基づいた環境の構成モデル」を活用した児童理解を通して—

長期研修員 大塚 あゆみ

幼児教育センターの研究に基づき、研究協力校における小学校第1学年の授業実践を行いました。

子供たちの実態を捉え、子供たちが更に成長していくためにはどのような経験が必要なのか、そしてそのような経験を子供たち自身が得ることのできる各教科の授業とはどのようなものか。

「環境の構成」をキーワードに授業を構想し、子供たちが各教科のねらいを達成する中で一人一人成長していく、そんな授業が実現しました。



授業実践を絵本にまとめました。総合教育センターのwebページで公開中！ぜひ手に取ってご覧ください！

令和7年度研究報告(特別研修員)

川島奈津子特別研修員の研究報告(概要版)を掲載します!

川島研修員は、相関図型の記録である「つながりマップ」を基に幼児理解を深め、一年間実践を重ねてきました。失敗を怖がり「負けるのが嫌」と挑戦しようとしなかった幼児が、園で人と関わっていく中で、徐々に友達や先生を信じ、自分を信じて世界を広げていく様子を研究としてまとめています。

研究報告書と指導案も総合教育センターホームページにて随時公開していきます。ぜひご覧ください!

自分なりの思いや願いをもち自分の世界を広げていく幼児を育む -「つながりマップ」を基にした幼児理解と環境の構成-



特別研修員 幼児教育 川島 奈津子(幼稚園教諭)

幼児の実態

- ・好奇心をもち自分の好きなことに興味をもって遊んでいる
- ・環境に関わり試してみるが、更に工夫したり挑戦したりすることが少ない
- ・失敗や負けることを怖がる

教師の願い

- ・前向きな見通しをもって遊んだり、自分の存在感を感じたりしながら、安心して試行錯誤してほしい
- ・自分の世界を広げていく楽しさを感じてほしい

手立て1

幼児の思いや願い、友達との関係性などのつながりを記録する「**つながりマップ**」を基に行う**幼児理解**

手立て2

「**つながりマップ**」で捉えた幼児理解を基にした、教師の関わりや援助、状況づくり等の**環境の構成の工夫**

成果

「**つながりマップ**」を基に幼児理解を深め、心の動きや友達関係の変容が見られたときにタイミングを逃さずに働き掛けたことが、「やってみよう」「挑戦してみよう」「やり遂げよう」などの気持ちを幼児自ら発揮して行動することにつながった。

課題

より多面的、多角的に幼児理解を行うために、複数の保育者で「**つながりマップ**」を作成したり、保育カンファレンスを行ったりするなど、活用の仕方を探る必要性が出てきた。

鬼に捕まりたくない。
負けるのが嫌。
椅子取りゲームは
応援する人がいい。

進級当初のA児



こぼしたり、失敗したり
するのが嫌だから、給食
の配膳をやりにたくない。

課題となっている部分に目が
いきがちだけど……

勝ち負けがある遊びだけで
なく学級の友達と触れ合っ
たり、つながりを感じたりで
きるような集団での遊びを
たくさんしよう。



給食の配膳を当番活動に
せず、やりたい気持ちや必
要感をもった幼児が助け合
って行えるようにしよう。

「温かく支援的な風土」 「自己発揮」「安心感」

「つながりマップ」とは

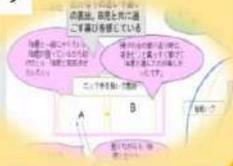
一人一人の幼児の心の動きと学級
全体の友達とのつながりや関係を視
覚的に記録する「相関図型の記録」。
線の太さや色、吹き出しの形や色で
幼児同士の関係を表す。



「**つながりマップ**」で幼児理解を深め、
A児が自己発揮できる状況を作っていく。

7月「つながりマップ」から

遊びや生活の中で少しずつ
自己発揮できるようになって
きた。「B児と一緒にいろい
ろな遊びに挑戦したい」とい
う気持ちが芽生えてきている。



Bちゃんと一緒に
給食の配膳をやってみるのはどうかな?

「うん。Bちゃんと一緒だったらできそう」と二人で配膳を行った。終わると「楽しかった!またやりたい」と笑顔で話した。翌日から進んで配膳を行った。



自分の気持ちを伝えたり、友達の気持ちを聞いたりして
安心して、鬼遊びの続きを始めた。

A児: 今度は大きな声で
「助けて」って言うよ。



A児: 助けてって言うよと思ったけ
ど声が出なかったんだ。

そうだったんだね。
「助けて」って聞かえたら、助けてくれたかな?

2学期後半のA児

やってみよう!
挑戦してみる!



友達の存在が安心感となり、前向きな見通しをもって、主体的に遊ぶようになった。以前は、消極的だったことにも、安心して挑戦するようになった。長縄跳びをする友達の後ろで、一緒に跳ぶまねをしていた。「挑戦してみる?」と声を掛けると、初めて挑戦し、跳べると笑顔で喜んだ。

10月「つながりマップ」から

B児以外の友達とも砂場
やブロックで遊んだり、鬼
遊びをしたりしている。
友達関係が広がり、
深まってきている。



自分の気持ちを言葉で伝えたり、友達の思いを聞いたりする中で、A児が自分の存在感を感じたり、前向きな見通しをもったりできるような状況づくりをしていく。

C児: 捕まってるの、全然
気付かなかったよ。
次は助けるよ!